

# 天文学とプラネタリウム

第102回



今月のお題

## 天プラは国境を越えて



国際天文学連合総会の天文普及に関する研究会で天プラの活動を紹介、大きな反響がありました。スマートなアイデアは国境を越えます。

出張観望会好評受付中!



www.tenpla.net

高梨直純 (東京大学)  
平松正顕 (国立天文台チリ観測所)

3年に1度開催される国際天文学連合 (IAU) の総会が今年8月に北京で開催されました。冥王星が惑星から外れることになったのは2006年の総会、88星座が制定されたのは1928年の総会と天文ファンとも関連の深いイベントです。この総会、このような基本事項の議決をするだけでなく天文学の様々な分野の研究会も一堂に会して行われます。その一つ、"Communicating Astronomy with the Public for Scientists (以下CAP)"に参加してきました。

CAPでは様々な国での天文教育普及活動の実践が報告されました。ポーランドの高校生向け泊まり込み望遠鏡実習、ブラジルでの日食関連新聞報道のまとめと考察、シドニー天文台による歴史的天文資料収集と展示の実践など。筆者(平松)も日本におけるアルマ望遠鏡の広報活動について紹介し、漫画を使った電波天文学の入門やチリ現地で働いている研究者・技術者の「姿」を見せる工夫などを発表しました。

CAPでは天プラの活動紹介も行いました。発表者は東京理科大学の亀谷和久さん。天プラの活動を初期から一緒にやってきた仲間です。発

表の中心テーマは東日本大震災被災地での天文教室と東京都心(六本木や丸の内)での天文教室でした。が、やはり「天プラとはなんたるか」を紹介するうえではこれまでやってきた他の活動についても紹介する必要があります。空港や美術館でのサイエンスカフェ、何らかのバリアのある方(外国語話者や病院に入院している子供)向けの天文教室と一緒に我々の旗艦商品であるアストロノミカル・トイレットペーパーも紹介したところ、予想通りの大人気。2006年プラハでの研究会で紹介した時も大反響でしたが、やはり今回もウケるのはそこか、という感じでした。「IAUのグローバル・プロジェクトとして各国語版を出せばいいんじゃないか!」と冗談なのか本気なのかわからないコメントをいただいたり、後に登壇した方の発表の中で「クリエイティブなアプローチ」の例として引用されたりと、大きなインパクトを参加者の皆さんに与えたようでした。本来のテーマの方も、「東京都心で観望会ができるなら世界のどの都市でもできるね」とコメントをいただいたり、被災地での活動に対して難民キャンプでの天文教室を企画されたアフリカからの参加者がコメントをよせてくれたりと、とても好評でした。



アストロノミカル・トイレットペーパーをひとくぎり70cmずつ、CAP参加者みんなに配ってはいポーズ。スポーツの試合観戦のようです。

IAUでは2008年からの10年計画で、途上国での天文学教育と普及に力を入れることを決めました。そのスローガンは"Astronomy for a Better World"。このコンセプトは途上国だけではなく世界中の天文普及活動に当てはまるでしょう。トイレで宇宙に想いを馳せるのも都心で星を眺めるのも、個々人にとって「よりよい生活」の一助となれば。